

## ひと 2017



## ヤドヴィガ・ロドヴィッチ =チェホフスカさん

新作能の台本を書いた元駐日ポーランド大使

ナチス占領下のポーランドで大量虐殺の舞台となったアウシュビッツ収容所。犠牲になったのはユダヤ人だけではない。同国南部で独立運動に加わった伯父も収容所に送られ、帰らぬ人となった。その家族史に東日本大震災を重ね合わせ、不意に襲う「不条理の死」を正面から取り上げた。東京電力福島第1原発事故にも触れ、「人類の負の遺産」を問う。

新作能「鎮魂」は収容所を舞台に、伯父が腕に入れ墨された囚人番号「61617」として登場。津波で息子を失い、原発

事故で避難を余儀なくされた福島県の男性との交流を描く。

2008年から12年まで駐日ポーランド大使。11年の「3・11」直後に被災地を訪れ、天皇皇后両陛下が大震災について歌を詠んだ12年の歌会始に招かれたのを機に台本の構想を具体化。6回も原稿を改め、上演にこぎつけた。「岸」をお題とした両陛下の歌も取り込み、鎮魂の思いを込めた。

ワルシャワ大在学中に能に出会い、研究を始め、東大留学を経て博士号を取得。演出家としても活躍する。「能には、生者と死者が同じ場に現れて会話する手段があり、西洋演劇とは違う優れた点があります」

新作能は11年発表の「調律師ーシヨパンの能」に次いで2作目。昨年11月のポーランドと国立能楽堂(東京)での上演は高い評価を得た。今年には福島県などで公演する。ポーランド・ザブジエ生まれの62歳。(共同)